

研究主題

言葉の力を付け、論理的思考力を高める指導法の工夫

— 説明的文章の読みの指導を通して —



1年
ひみつがいっぱいの
ぼうしずかんをつくろう

言語能力向上拠点校の研究に際して 昭島市教育委員会 教育長 木戸 義夫

本校は、東京都教育委員会言語能力向上拠点校及び昭島市教育委員会研究奨励校として「言葉の力を付け、論理的思考力を高める指導法の工夫」を研究主題として、今年度、学力向上に向けて国語科における説明的文章の読解に取り組み、児童が論理的に考え表現する力を育成する研究を進めてきました。本日の中間発表を踏まえ、今後も更に充実した研究を期待いたします。

授業改善から学力向上へ

昭島市立中神小学校長 俣田 康之

説明的文章の読みの授業を変えたい、そしてそれは、必ず学力向上に結び付くはずだ、本校は、そんな強い思いをもって研究を進めてきました。本研究の中で子供が身に付けた力は、どの教科の学習でも生かされ、学びの充実につながると信じています。文章の内容を的確に捉え、自分の考えをもって友達と学び合い、知識や技能、そして、学び方を身に付けていく授業、学校を目指します。

昭島市立中神小学校



〒196-0025 昭島市朝日町5-8-5

TEL : 042-541-3542

FAX : 042-541-6197

H P : <http://www.city.akishima.ed.jp/~nakagami/>

説明的文章 あるべき読みの指導への指導観の転換

これまでの指導の課題

- ① 教科書にあるから読むという、児童にとっての読む必然性の弱さ
- ② どの説明文でも、段落・意味段落ごとに同じ学習過程で読み進め、「要点、要旨」を問い続ける、一問一答教師主導型の授業（読まされる学習）
- ③ 一読後書かせた初発の感想が、その後の学習に生かされない。

これからの読みの指導の在り方

- ① 「導入」のはじめに、単元との出会いを設定し、読む必然性をもたせる。
クイズ、1枚の写真・絵の提示、読み聞かせ 等
- ① 単元のめあてを設定し、学習計画を立てて、児童に学習の見通しと手順をつかませ、その手順に沿って学習を進める。
- ② 主体的な読み手を育てる学習過程に転換する。
 - ・ **一単元の指導**
(単元名の工夫)
1次…単元の(読みの)めあてをもち、学習計画を立てる
2次…めあてに沿って文章を読み取り、自らの読みを確かにする
3次…2次の読みを生かして単元のねらいを達成し、(生活に)生かす
 - ・ **一単位時間の指導**
読みのめあてをもつ
自らの力で文章に関わり、読みをつくる
読みを基に話し合う
自らの読みを確かにし、自己評価(相互評価)する
- ② 文章に応じて読み方を変え、単元化の在り方を工夫する。
 - ・ 言葉の魅力(豊かさ、奥深さ、面白さ等)に気付かせ、言葉の世界を広げるとともに、説明文の読み方を身に付けさせることをねらいとする文章は、ていねいにしっかり読むことを中心に単元化する。
 - ・ 話題中心で、「文章を読んで考えたことを発表し合う」等がねらいの文章は、並行読書をさせながら、文章全体を対象にして観点を決めて読み取り、それを生かして、3次で自ら選んだ資料を活用して作品化し、単元のねらいに迫る。
※ 観点例・筆者の主張をとらえ、それについての自分の考えをつくる
・ 筆者の論の進め方をつかみ、自らの作品づくりに生かす 等
- ② 段落・意味段落に応じて読み方を変える。
 - ・ 段落・意味段落に応じて作業法を換える
 - ・ はじめは手順をていねいに示し、徐々に児童が自ら読み進めるようにする
- ③ 単元は、一つ一つの学習活動が必然性をもってつながるよう設定することが大切である。初発の感想を書かせたら、学習材化してその後の学習に活用する。
 - ・ 初発の感想を、「心に残ったこと」「話し合いたいこと」「難しい言葉」等観点を示して書かせ、それらを一覧表にして読みのめあてを立てる際に生かす
 - ・ 読み深める際、一覧表も生かして話し合う
 - ・ つまづいている子への指導の視点として活用する 等

④ 読み深めの際に
ア ワークシートが枠
シートになっている。
イ 実物等に頼った指
導をしている
ウ 指導の策が明確で
ない

⑤ 2次の教材の読み
と3次の活動がつ
ながっておらず、単
元として一まとまり
の学習になって
いない。

⑥ 単元の終わりが学習
の感想等の交流で終
わることが多く、学
習したことが生か
されず、成就感がも
てない。

⑦ どんな言葉の力が
身に付いたかが明
確でない。

※ 指導と評価の一体
化が図られていな
い。
ワークテストの穴
埋め（必要な情報
を取り出す力）のみで
読みの力を評価して
いる。

④ 読み深めの際に
ア 教師の問いに従って、文中から重要語句を抜き出し、□に入
れていくだけの穴埋め式枠シートは使わない。ワーク（作
業）するシートへの転換を図る。
イ 基本的には、教材文とさし絵や写真等の資料から読み解く。
実物等の使用は、効果的な場面で最小限に。
ウ 評価規準（A・B、Bに満たない）を適切に設定し、それ
ぞれに対する指導の策を明確にする。
・ Bに満たない場合の指導の策
・ BをAにする、Aをさらに伸ばすための指導の策

⑤ 単元名と目標は主として3次の活動に関わらせる。3次の
ための1・2次という位置付けを明確にする。単元の流れの
中に2次の教材の読みを位置付ける。
ア 単元を貫く言語活動を明確にする。付けたい読みの力に合
った言語活動を設定する。
イ 2次と3次のつなげ方
・ 2次の読みを、事典の第1章「じゃんけんの知恵」、3次
の読みを第2章「〇〇の知恵」とする
・ 3次で「〇〇パンレット」を完成させるために、2次の読
みでパンレットの内容を作っていく 等

⑥ 生活に生かし、学習に対して成就感・満足感がもてるよう
にする単元の終末を設定する。
・ 〇〇に向けて発表してほめてもらえた
・ 3次で作った作品を送ったら返事が来た
・ 3次で作った作品を学校図書館に置いて読んでもらえた
等

⑦ この単元・この教材でどんな言葉の力を付けるのかを具体
化する（コツを身に付けさせる）。
・ 段落の要点を読み取るコツ
逆接は後が大事、例の部分を取る等
さし絵等と本文を結び付けて読む
資料、生活経験から本文を補う 等
・ 要旨を読み取るコツ
繰り返されている言葉に留意する
尾括、頭括、双括型の文章を知る 等
・ 言葉に関する読みのコツ
数字が出てきたら気を付ける
キーワードを別な言葉で言い換える 等
・ 文の読み分け方・読み解き方を押さえる
「や」「～たり～たり」「など」
文型、文末表現、指示語、接続語の役割の理解 等
・ 難語句に関するコツ
辞書的な意味と文脈の中の意味の違いの把握 等

※ 評価の改善を図る。
・ 「指導と評価の一体化」から「評価と指導の一体化」へ発
想を転換する。「指導」→「評価」→「指導」→「評価」
の流れを作る
・ ワークテストの点数と共に、ノートやワークシートの記述
内容、発言等を記録しておき、評価資料とする

言語能力向上拠点校としての取り組み

1 重点課題

A 言葉による発信力を高める

- ・説明的文章の読みを生かした事典作り等を通じた発信力の伸長

B 美しい日本語を身に付ける

- ・詩の暗唱朝会や音読の取り組み、俳句大会等による、伝統的な言語文化や美しい日本語に触れる機会の設定

2 共通課題

ア 豊かな読書生活をはぐくむ学校づくりの推進

- ・朝読書や読み聞かせ、ブックトーク、アニメーション、読書貯金、ポップづくりなどによる読書活動の充実

イ 他校や保護者・地域等への発信

- ・学校ホームページによる日常的な発信

本校では、上述の重点課題及び共通課題を受け、国語の説明的文章の読解をテーマとした校内研究を進めています。さらに年間を通して、以下の活動等に取り組み、児童の言語能力の向上に努めています。

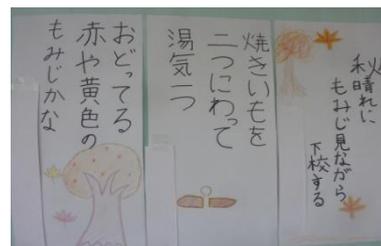
詩の暗唱朝会

学年ごとに詩を暗唱し、一人で、少人数で、全員で等、表現の仕方を工夫して発表しています。発表後は振り返りを行い、多様な表現の仕方を学び合っています。



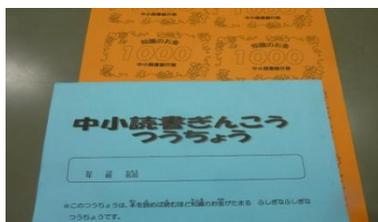
俳句大会

学期に一度、全校で俳句作りに取り組み、各学級から一名校長賞を選び、表彰します。伝統的な言語文化に触れると共に、思ったことや感じたことを言葉で表現する力を付けています。



読書貯金

一冊読むと知識のお金が貯まる読書貯金に取り組み、読書量が着実に増えています。



本のポップづくり

お気に入りの一冊をポップで紹介し合うことで、読書の幅が広がっています。



単元名 ひみつがいっぱいの ぼうしずかんをつくろう

教材文 「ぼうしのはたらき」(三省堂1年下)

単元の目標

○いろいろなぼうしのはたらき、いろ、かたちについて、違いを読み取り、自分が選んだぼうしについて書いた文章を発表し合う。

指導の工夫・・・タイトルの後の丸付き数字は、「説明的文章 あるべき読みの指導への指導観の転換」との関連(中・高学年も同様)

実物を使って言葉の意味を理解させる ⑦

給食の用意をする時にかぶる帽子の学習では、本文の「すっぽりとおおう」の意味を捉えさせるために、実際に帽子をかぶらせ、視覚的に捉えさせたり、別の言葉に言い換えさせたりした。また、「めだつ」については、色のカードを使って感覚的に目立つ色について感じ取らせた。

まだかみの毛が出てるよ。



「すっぽりとおおう」って、かみの毛が全然隠えないようにかぶることなんだ。

本文の文型を用いる ⑦

本文で繰り返されている「○○は、～のときにかぶるぼうしです。～のはたらきがあります。そのために、～の色(形)をしています」という文型を用いて、自分が紹介したい帽子について説明する文章を書いた。



次は「はたらき」について書けばいいんだな。

キーワードを□で囲む ⑦

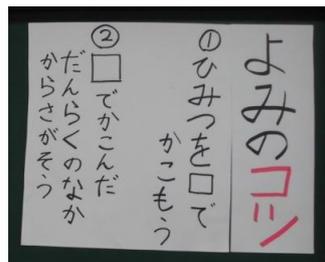
3種類の帽子について、キーワード「はたらき」「いろ」「かたち」を、文の中から見付け、□(四角)で囲む。次に、□で囲んだ段落に着目させることで、「どのようなはたらきをしているか、どのような色をしているか」等、大事なところを読み取りやすくした。

そして、「はたらき」「いろ」「かたち」について、「～のはたらき」などと表すために、必要な部分はどこかを出し合い、話し合ってためた。



今日のキーワードの「はたらき」と「かたち」を見つけたよ。四角で囲むと分かりやすいな。

「はたらき」は「かみのけがおちるのをふせぐはたらき」でいいな。



『読みのコツ』として、提示することで、これからの説明文の読み取りに生かせるようにした。

成果と課題

- キーワードを□(四角)で囲み、□のある段落から大事なところを読み取ることを繰り返すことで、大事な文を見付けたり、その文の中の特に必要な言葉を選んだりできた。
- 言葉の意味を理解するために実物を見たり、動作化したりすることで、文脈の中の言葉の意味が理解できるとともに、日常生活でその言葉を使えるようになった。
- 複数の意見を比較・検討するときには、本文を根拠にして発言することをより意識させる必要があった。

単元名 花火はかせになって、花火のひみつを伝えよう！

教材文 「打ち上げ花火のひみつ」（三省堂4年）

単元目標

- 「打ち上げ花火のひみつ」に関心を持ち、花火のひみつやすばらしさを伝えようとする。
- 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら読む。

指導の工夫

単元との出会いを工夫する ①

外国と日本の花火の写真を提示、比較したり、実際の花火玉を見せたりすることで、花火についての疑問や知りたいことを引き出し、学習に対する意欲を高めるとともに、読む必然性をもたせた。

中はどうなっているのかな。どうやって打ち上げているのかな。外国の花火玉も調べてみたいね。



読みのキーワードを提示する ⑦

「色」「形」等、読み深めるキーワードを明確にすることで、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えるヒントとした。

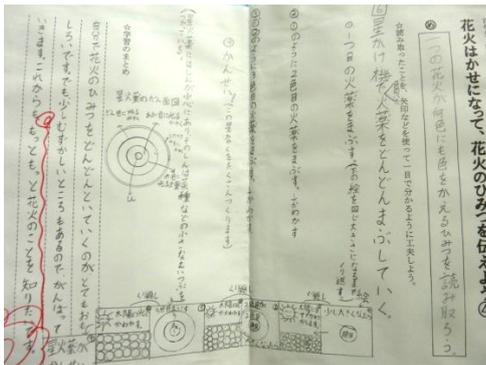
色や形について書いてあることを表にまとめると、外国と日本の違いが分かりやすいな。

図	形	色	
	丸くなんぞん 中がだんた 広がっていく	真ん丸い、 バランスがよい 色がきれい	日本
	丸くなんぞん 色がきれい	丸くなんぞん 色がきれい	外国

⑦ 日本と外国の打ち上げ花火のちがいを読み取ろう。

図と文をつなげる ⑦

同じ工程を繰り返す星火薬の作り方について、矢印を用いてまとめたり、花火玉の断面図に本文から読み取った説明を加えたりすることで、何色にも色をかえる星火薬のひみつをまとめた。



花火玉の断面図と矢印を使って説明したので、分かりやすくなったな。

花火事典の多様なまとめ方（例）

- ・ 箇条書きでまとめる
- ・ 工程の手順を矢印で表す
- ・ 自分の考えを加えてまとめる
- ・ 順序を表す言葉に注目してまとめる

成果と課題

- 外国と日本の花火の写真を比較できるよう、提示したり、実際の花火玉を見せたりすることで、「外国の花火が丸くないのは花火玉の形に関係しているのではないか」等、教材文への興味関心を高め、読み進める原動力にすることができた。
- キーワードを提示して読み進めたことで、児童は色や形に着目して、中心となる語や文を見付け、外国の花火と日本の花火の違いをまとめることができた。
- 本文と図や写真をつなげて読み、矢印や図を用いて自分なりに工夫してまとめさせることができた。今後、より分かりやすくまとめられるよう、さらに具体的な手立てを工夫していくことが必要である。

単元名 なべパンフレットをつくろう！

教材文 『なべ』の国、日本（三省堂6年）

単元の目標

- 引用文や表、グラフを含んだ文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読み、要旨をとらえる。
- 文章の中での語句と語句との関係を理解する。

指導の工夫

並行調べをする ②

なべ料理について、本文に載っているなべ料理以外のものを自分で調べることを通して、「なべ料理がその土地で手に入る材料を生かし、味付けなどを工夫している」という筆者の主張を実感した。

本当にその土地らしいなべ料理がたくさんあると分かったよ。

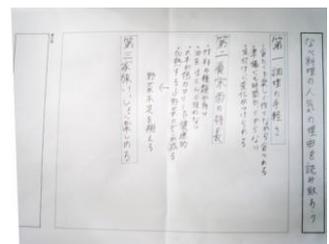


話し合いにより内容を吟味する ⑦

文章に主体的に関わる力を付けることが重要である。筆者は、三つの段落に分けてなべ料理の人気の理由について述べている（調理の手軽さ、栄養面の特長、家族がいっしょに楽しめる）が、内容を吟味すると三番目の段落の中にある「体を中からあたためる」ことは、第四の項目とも考えられる。そこで、本文を基に、いくつかの理由が述べられているか話し合うことで、内容を深く理解した。

具体と抽象を読み分ける ⑦

筆者の考えるなべ料理の人気の理由について、「食たくで楽しく作りながら食べることができる」「準備にかからない」「使う材料に応じて、味付けに変化をつけやすい」などといった具体的な記述と、「調理の手軽さ」といった抽象的な記述に着目し、読み分け、整理することで、要旨をつかんだ。



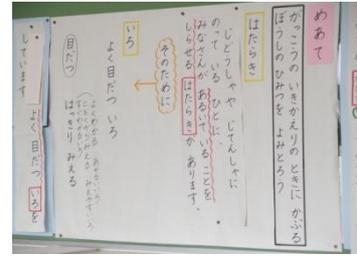
「調理の手軽さ」という言葉でまとめられるな。

成果と課題

- 具体と抽象に着目して読み分けることで、文章を構造的に理解し、要旨をつかむことができた。また、主体的に本文の読みに関わり、なべ料理の人気の理由について根拠をもって読み取れた。
- 並行調べをしたことで、題材が身近なものになり、自分の知識や経験、考えなどと結び付けながら読むことができた。
- 学び合い場面で他の児童から学んだことを生かして、各自がもう一度自分の考えをまとめる時間の設定が必要である。

成果

- 前時の想起、めあての確認、微音読、一人読み、話し合い、学習のまとめという1単位時間の学習の流れが、全学級で定着した。
- 単元の学習中には教室にめあてや学習計画、学習の経過を掲示することにより、学習を振り返ったり見通しをもったりさせることができた。
- 発達段階や教材に応じて、説明的文章を読み取るコツ（キーワードを囲む、図や表と文章を結び付けて読む、接続語に注目するなどして要旨をまとめるなど）を明確にすることで、説明的文章を意欲をもって読ませ、読みの力を身に付けさせることができた。
- 「花火事典」「ぼうしずかん」「なべパンフレット」の作成など、単元を貫く言語活動を設定することで、単元として一まとまりの学習にすることができた。



前時の想起に活用する
学習の経過の掲示



めあてについて
考えながら行う微音読



キーワードに
着目して行う一人読み



短冊を使って
練り上げる話し合い

課題

- 「一人読み」の前や「話し合い」の場で、教師が読み取らせたいことを押さえ過ぎる傾向がある。今後、教師主導型授業から課題解決型授業への転換をより一層図り、児童一人一人がより意欲的、主体的に読む力を育てていく。
- 「話し合い」にならず、一人読みで読み取ったことを発表し合うことに終始してしまうことがある。今後、教師は教材研究を通して、読みを深めるポイントをつかみ、話し合いの過程で適宜提示することで、児童の発表をつないだり深めたりして話し合いを充実させ、発見や読みの深まり、広がりのある学習にしていく。

研究に携わった教職員

(○は研究部)

校 町	俣田 康之	副校長	草川 あずさ	
1 年	太田 哲子	吉川 駿平	○篠田 太紀	吉野 はるな
2 年	梁田 真之介	◎上野 潤子	柿原 健吾	
3 年	村上 正昭	○佐保田 芳樹		
4 年	○伊丹 彩	小山 昭夫		
5 年	岡 利和	○西尾 春佳		
6 年	東森 一朗	高柳 敦子		
専 科	太田 恵理	和田 七恵	中村 朱実	
	○若山 克子	小山 航		